

# 2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書 2024年11月9日(土)

学校法人聖愛学園・認定こども園・聖愛幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・わたしを大切に作る～自分で考え、表現する子ども
- ・ひとを大切に作る～人の気持ちがわかる子ども
- ・わたしたちを大切に作る～違いを認め合い、ともに生きる子ども
- ・自然を大切に作る～自然とともに生きる子ども

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・保育の質の向上、職場環境の整備、園庭雨水排水問題

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の質の向上	A	今年度、保育の重点目標を「子ども理解を深める」とした。そのために各分野にわたる研修を企画、又各種の園外研修会に参加した。(2023年度事業報告参照) 子ども理解を深めることはひとり一人を大切に作る保育、ひては保育の質の向上に繋がると思う。夏の園内研修では異年齢保育について学び、職員の理解も進んだ。異年齢保育ではより一層子ども理解が必要となる。今後、異年齢保育の導入に取り組むことができるよう学びを続けたい。
2	職場環境の整備	A	使い勝手の悪かった職員室のリノベーションをイケアに依頼して行った。職員が誰でもいつでも使えるようフリーデスクとし棚や収納ユニット、食器棚、冷蔵庫を新しく設置した。それに合わせて室内のレイアウトを変え、教材の置き場所なども工夫して決めた。 職場環境として正規、パート職員の働き方を再考した。働き方改革となる以下の3点を努力目標として掲げ、シフトを検討した。 ・労働時間を守る ・休憩時間を守る ・クラス担任はバスの添乗をしない
3	園庭雨水排水問題	B	以前より雨が降るたびに園庭に水が溜り排水に問題があった。7月10日未明の集中豪雨によって新園舎1階部分に床上浸水したことにより対策は急務となった。専門家2名に園庭と建物の全体像を見て頂いたところそもそも建物の設計にミスがあるので事後対策は100%ヴォーリズ社の責任で行うべきであるとのこと。そのことを踏まえ春田久美子弁護士のアドバイスを受けてヴォーリズ社と交渉を重ねた。前園長木村真彦氏にも設計当時のいきさつを文書で回答していただいた。保育室の床下にあるピットが原因で壁面や床面にカビが生える件はヴォーリズ社が工事費用を負担することになった。園としてはピットを使用しない対策を望んでいる。そのための工事についてはA案とB案が出されたが、決定に至らず来年度に持ち越す課題となった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

## 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	3つの評価項目について1と2については時間をかけて取り組んできた課題であり、今回、成果が得られたと思う。3の雨水排水問題については今年度中に具体的な解決策が示されなかったものの、専門家から知見を得たことで時間をかけて検討することができ、粘り強くヴォーリズ社と交渉することで良い結果を得られるものと考えている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

## 5. 次年度取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	異年齢保育の導入に向けて	2024年度は準備の一年となる。入園説明会や在園児の保護者に説明して理解を得る必要がある。キンダーは年間を通して縦割りのグループを作り保育の時間を設けることで気づきが得られ、次年度の参考にすることができる。プロジェクトチームを作り、次年度のクラス編成、使用クラス、横割り保育の内容、カリキュラムなど具体的な課題に取り組んでいく。
2	保護者対応	昨年の保護者アンケートで園での子どもの様子をもっと知りたいという声が多かった。「変わらないですか?」「変わりません。」で終わるのでなく子どもをしっかり観察することで子どもの変化を伝えられるようにしていく必要がある。保護者と信頼関係を築き、連携して子どもを見守っていききたい。
3	園庭雨水排水問題	2024年7月1日、集中豪雨により新園舎は再び床上浸水の被害を受けた。雨の日は土嚢を置いて凌いでいるが早急に工事計画を立てる必要がある。それは保育室床下のピットに雨水を溜めない方法で雨水を排水する工事と同時に進める必要があると思われる。

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

あらゆる面で年々向上していることを心から喜び、教職員・スタッフのご努力に敬意を表します。

子どもたちが登園を喜び、保護者との信頼関係ができていれば、少子化の趨勢にある中でも園の経営は安泰です。ひとり一人の子どもが大切にされ、その豊かな発達を促す教育・保育と、それに携わる皆さんの職場環境は、本園がキリスト教を土台としているからこそ充実してきたのだと思います。

聖愛学園のますますの発展を確信できた「評価委員会」でした。ありがとうございました。(牧忠孝)